

# 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 大里南 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

＜男子＞

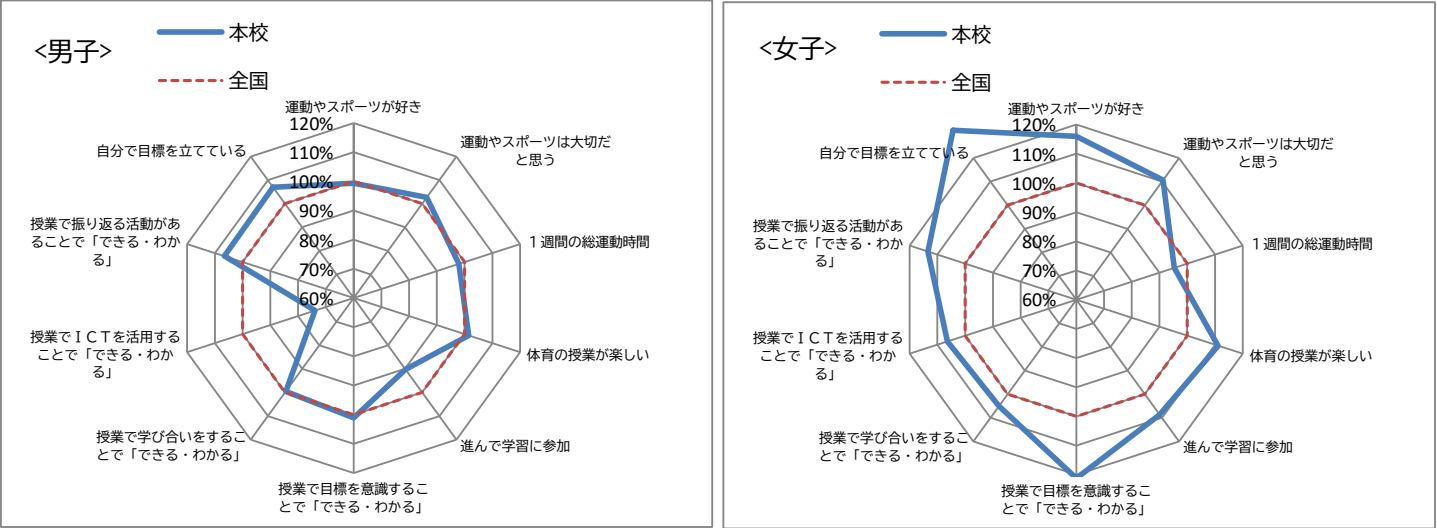
| 本年度の結果      | 握力    | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび  | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国          | 16.01 | 19.19 | 33.79 | 40.66 | 46.90     | 9.50 | 150.42 | 20.75    | 52.53 |
| 本市          | 15.98 | 19.39 | 34.42 | 40.27 | 49.36     | 9.54 | 150.13 | 21.81    | 53.10 |
| 本校全国平均以上の種目 |       |       | ○     | ○     | ○         |      |        | ○        | ○     |

＜女子＞

| 本年度の結果      | 握力    | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび  | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国          | 15.77 | 18.16 | 38.19 | 38.70 | 36.59     | 9.77 | 143.13 | 13.15    | 53.92 |
| 本市          | 15.88 | 18.39 | 38.51 | 38.13 | 38.67     | 9.79 | 142.58 | 13.44    | 54.32 |
| 本校全国平均以上の種目 |       | ○     |       | ○     | ○         |      | ○      |          | ○     |

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・概ね全国平均と同等か、それを上回る結果となった。
- ・10月から2月末にかけて、運動場の改修工事があったため、休み時間や体育科の学習での運動場使用ができなかった。そのため、昼休みに体育館を学年別に開放するようにした。開放日には、多くの児童が担任を中心に活動する姿が見られた。
- ・学習でのICTの活用や総運動時間について、今後の課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・今後も、体育科専科教員を中心として、児童の「わかる・できる」が見える授業づくりに取り組み、「体を動かすことが好き」な児童の育成に努める。
- ・体育科の学習では、体力向上に向けた運動を準備運動として取り入れるように努める。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

- ・今後も、体育委員会を中心とした新体力テストの練習や鉄馬タイム、体力向上を目的とした集会など、児童主体の取組を学期に1回程度計画し、実施していく。
- ・学校だより等を通して、取り組んだ内容を保護者や地域にも広く発信していく。